



英語力がつく授業を目指して：StoryRetellingの試み

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-05-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 稲垣, スーチン, 稲垣, 俊史 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24729/00005864

英語力がつく授業を目指して

—Story Retelling の試み—

稲垣 スーチン・稲垣 俊史

1. はじめに

大学英語教員として「英語力がつく授業」にしたいと日々実践を重ねている。では英語力がつく授業とはどのような授業であろうか。この質問に答えるには、教員自身が「どうすれば英語ができるようになるのか」、つまり英語習得のプロセスに関する何らかの明示的な「理論」を構築する必要がある (cf. Ellis, 1985, pp. 2-3)。この理論があれば、あとは、その理論で示された習得プロセスを促進するような授業活動を行うことが、英語力がつく授業につながると考えられるからである。我々は、自身の学習・教授経験ならびに最近の第二言語習得研究の知見 (e.g., Gass, 1988; 村野井 2006) から、英語 (言語) 習得の理論として以下のようなINPUT → INTAKE → OUTPUTの流れを想定している。

INPUT → INTAKE → OUTPUT

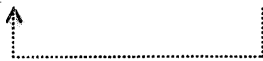


図1. 英語 (言語) 習得の「理論」

図1が示すように、言語習得にはINPUTが不可欠で、これはReadingやListeningから得られる。さらに、INPUTされたものの一部は実際に頭に「取り込まれる」(INTAKEになる)。そして、INTAKEされたものに基づきOUTPUT (Writing/Speaking) が起こる。(さらにOUTPUTされたものは自身へのINPUTになる。) 英語 (言語) 習得はこのようなプロセスを繰り返すことにより徐々に進むと考えられる。そうであれば、英語力がつく授業とはこの習得プロセスを何らかの形で促す授業ということになる。

本論文では、「英語力がつく授業」を目指して、このINPUT → INTAKE → OUTPUTの流れを踏まえて考案されたStory Retellingを用いた活動を紹介する。この活動を大学の英語授業で実践した具体例を示しながら、その手順、注意点などを提示し、英語力がつく授業を実現させる一助としたい。

2. Story Retellingを用いた活動例: *The New Principal*

本活動はMethold et al. (2001) に収録されているユーモア・ストーリー “The New Principal” (260語) と付属の音声を用いた (全文は資料1を参照)。すべての行程を終えるのに40分程度かかる活動である。基本的な手順を表1に示す。

表 1. “The New Principal” を用いた活動手順

1. Pre-listening: Funny story called “The New Principal”
2. 1st listening
3. Comprehension Qs → 2nd listening
4. Distribute the script → Check answers
5. Repeat after me
6. Buzz reading (Individual practice)
7. Overlapping/Shadowing
8. Story retelling: Individual practice → Pair work

(行程 1) Pre-listening にあたる行程で、学生に “We are going to listen to a funny story called *The New Principal*.” と伝え、タイトルを板書する。また、“You know what a principal is?” などと聞き、学生から “校長先生” などの答えを引き出す。この行程の目的はストーリーの内容を予測させ、聞く準備をさせることである。

(行程 2) “Now let’s listen to the story and see if you can understand what’s funny about this story.” などと言って、まず一度聞かせる。メモを取ってもよいと伝える。

(行程 3) Comprehension questions が印刷されたプリント (資料 2) を配布し、“Let’s go over the questions.” などと言って、各質問を読み上げる。“Answer them if you can.” などと言って答えを記入させる。“Never mind if you cannot answer them now, because I’m going to give you another chance to listen to the story.” などと伝える。この行程により次の 2nd listening で聞くべき焦点が定まり、理解しやすくなると思われる。そして、もう一度 Story を流す。“Check your answers while listening or write down your answers, if you haven’t given your answers yet.” などと伝える。聞いた後 “Give your answers now. Don’t leave any blanks. If you are not sure, try to guess what the answers are.” などと伝える。

(行程 4) “Now I’m going to give you the script of the story. So read the script and check your answers with a red pen or something. I’m sure you can understand it if you read it.” などと言って、スクリプトを配布する。この過程には (答え合わせ以外に) 目からの INPUT も与え INPUT 量を増やし、理解度を高める狙いもある。机間巡視をして答え合わせがほぼ終わったタイミングで Now let s check the answers.” と伝え答えを板書しながら与える。問題となりそうな箇所は学生に聞いてもよい (例えば話しの落ち “punch line” に関わる B-2 の質問)。最後に “How many of you got all of the answers right, just by listening to the story twice?” と聞いて、どれくらいできたか確かめてもよい。なお、答え合わせはスクリプトを配る前に学生を指名しながら Interactive に行ってもよいが、時間がかかり過ぎないように注意する。さらに 3rd

listening を設けて、“Follow along the script as you listen.” などと言って、学生に聞きながらスクリプトの文字を追わせる過程を設けてもよい。行程 1～4 が図 1 の INPUT に当る。

(行程 5) ここから INTAKE の段階に入る。大学受験を意識した英語授業であれば、INPUT の段階までで十分と考えられるかもしれないが、英語力をつける授業にするには「せっかく理解したのにそこでやめるのはもったいない」と言え、さらに英語を頭に取り込む活動を行う。まず、“Repeat after me sentence by sentence.” と言って後についてリピートさせる。誤った発音 (例えば rowdy [raudi] を [roudi] と発音する) が聞かれる場合はその部分を取り出し、さらにリピートさせる。

(行程 6) “Now read it yourself.” などと言って、学生に個人練習をさせる。各自が一斉に自分のペースで音読し始め、教室がザワザワという音に包まれるため Buzz reading と呼ばれる。1 通り音読し終わったら黙読に変えるように指示し、教室が完全に静かになったらストップをかける。他のやり方として、全員に立って音読させ、読み終わったら着席してさらに音読を続けるよう指示してもよい。最後の 1 人が座った段階でストップをかけるが、このやり方だと最後までザワザワ状態が維持され、読むのが遅い学生も最後まで遠慮せず声が出せる。また、キッチンタイマーなどを使って時間設定 (例えば 3 分) をして、“Keep reading until you hear the beep.” と指示して練習させてもよい。

実は、学生に配布したスクリプトの裏面には、後の Story Retelling 用の Key words (資料 3) が印刷されている。すでにそちらをチラチラ覗いている学生も見られるが、音読練習を始める前に、“Look at the backside of the script. Later on, you are going to retell the story, referring to these key words. So, 内容と英語をしっかりと頭に刷り込むような気持ちで音読してください” と伝えておくと、学生の音読練習に対する集中度が高まるようである。

(行程 7) 音声教材を使って、スクリプトを見ながら聞こえる音声と自分の声がぴったり重なるように読み進めるのが Overlapping、スクリプトと見ずに聞こえたものを再生して行くことにより、音声に影のようについて行くのが Shadowing である。これらは、もともと同時通訳者の訓練メソッドで challenging な活動であるが、すでに内容を理解し音読練習も行ったテキストであればそれほど難しくなく、thrilling な INTAKE 活動となる。“I’m going to play the story once again. It’s up to you whether you try overlapping or shadowing.” と言って 1 回流し、学生に Overlapping か Shadowing のどちらかをやらせてもよいし、2 回流すことにして、1 回目で Overlapping、2 回目で Shadowing をさせてもよい。(ただし行程 7 は時間がない場合は省略可能である。)

(行程 8) ここから OUTPUT の段階に入る。“Turn over the sheet and look at the key words on the backside. もう内容は分かっているし、英語もかなり頭に残ってますよね。あとはこの Key words を見ながら「あ～あのことか」と内容を思い出しながら、気楽に英語でどンドン言っ

てみてください。本文から盗めるところは盗んで、あとは自分の英語で補いながら読んでみてください。本文と同じになる必要はありません。最初が一番上の *Let me tell you a funny story* で始めて、最後が一番下の *No wonder he was the oldest-looking!* で締めてください”などと説明する。「じゃ～どんな感じか、私がやってみますから、Key words を目で追いながら聞いておいてください」と言って、教員が以下のような例を示す（番号は Key words との対応を示すため、実際には発音されない）。

Let me tell you a funny story. 1. Class 5A was the worst class in school. One day, a new principal came to the school. 2. He stayed outside the classroom, looking through the window, to see how the students were doing. 3. He was disgusted by what he saw. Some students were fighting, and others were throwing things at one another. No one was doing any work. 3. The principal took a deep breath and opened the classroom door. But no one paid any attention to him. 4. “Silence,” he shouted and this time they stopped what they were doing. 7. The principal went to the oldest-looking boy, who had also been the noisiest, and pulled him to the front of the class. 8. He said he was going to punish the boy as an example to the others and told him to go to his office and wait for him. 9. Then, he turned to the other students and lectured them about the proper way to behave in class. When he had finished, he asked the students if there were any questions. 10. One of the students raised her hand and asked, “When can we have our teacher back?” 11. At that moment, the principal suddenly realized what he had done. He realized that the boy he had just sent to his office was the teacher of the class. *No wonder he was the oldest-looking!*

その後 “Now practice it yourself.” と行って 1 回通り個人練習させる。その際、「なるべく表のスク립トを見ないで、自分の英語で言うようにしましょう」などと伝える。ちなみに、Key words を別の紙ではなくスク립トの裏面に印刷したのは、retelling の際、スク립トを横目に単に該当箇所を読み上げることを防ぐ工夫である。また、Key words の余白へのさらなる語句の書き込みは cheating（カンニング）であり、しないようにと伝える。

個人練習の後、Pair work に入るが、まず 1 人の学生を指して “Suppose we are a team.” などと言って、「もし私が *Let me tell you a funny story* と始めたら、あなた (Partner) が 1 (Class 5A) をやって、次に私が 2 (New Principal → Through the window) をやる、つまり代わりばんこにやっていく。So you take turns retelling the story, ok? それで最後まで行ったらもう 1 回最初に戻って、今度は役を替えて “switch roles”、あなた (Partner) が “Let me tell you a funny story” で始めて、私が 1 (Class 5A) やる。これで 2 回通りやったら、二人とも全体を 1 回 retell したことになるでしょ」と説明して、“Now find your partner and start retelling the story. Please go ahead.” と Pair work に入る。

終了後、何か気づいたことがあれば学生に指摘するのもよい。例えば時制の一致に問題があれば、過去形で始めたら（直接引用する以外は）過去形で通す（A new principal came... → He stayed...）ことを指摘する。最後に、時間があれば“I want to know how you are doing.”などと言って、番号ごとに学生を指してretellさせるのもよい。また、さらにStory-rewritingの形でKey wordsを見ながら紙に書かせて提出させてもよい。その場合、（余裕があれば）添削して後日返却するとよい。

以上が、Story retellingを用いた活動例の紹介であるが、今一度、行程1～4、行程5～7、行程8が図1のそれぞれINPUT、INTAKE、OUTPUTの段階に対応していることに注意されたい。このように、本活動は英語（言語）習得のプロセスに適合したもので、英語（言語）習得を促す活動であると考えられる。つまり、この活動は「英語力のつく授業」につながる活動であると言える。

3. 結句

本論文では、「英語力のつく授業」をするには、「どうすれば英語ができるようになるのか」に関する「理論」を持つことが必要で、その理論に基づき、英語習得のプロセスを促進させる活動を行う必要があると主張した。具体的には、まず我々の英語（言語）習得「理論」を示し、その習得プロセスに合った活動の一例としてStory Retellingを用いた活動を紹介した。本稿が、各教員の「英語力のつく授業」の実現に向けての一助となれば幸いである。

なお、Story Retellingは、Funny storiesのみならず、事件（例. 交通事故）の記事・ニュースやアカデミックな教材（例. 異文化理解に関するレクチャー）にも適用可能である。アカデミックなものであれば、Retellする学生が講演者になってミニ・レクチャーを行う形になり、アカデミック・プレゼンテーションへの橋渡しの活動にもなる。また、Key wordsと絵を組み合わせたフローチャートやコンセプト・マップ（村野井 2006）を作成し、それを指しながら出来事やコンセプトを説明させることもできる。このように、Story Retellingは工夫次第で様々な適用可能で、英語力増進効果も期待できる活動である。

最後に、Story Retellingは、以前から日本の英語教育において行われてきた活動であることを指摘しておく。例えば、小菅・小菅（1995, pp. 74-85）には中学校の英語授業におけるStory Retellingの指導手順と実践例が紹介されている。本稿は、INPUT → INTAKE → OUTPUTの流れのなかでのOUTPUT活動として、Story Retellingを見直したものであると言える。このような論考は村野井（2006, pp. 78-87）にも見られるがまだ新しく、今後さらに理論と実践の両面から追求されることが望まれる。

参考文献

- 小菅敦子・小菅和也 (1995). 『英語教師の四十八手<第8巻>スピーキングの指導』 研究社.
- 村野井仁 (2006). 『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』 大修館.
- Ellis, R. (1985). *Understanding second language acquisition*. Oxford: Oxford University Press.
- Gass, S. M. (1988). Integrating research areas: A framework for second language studies. *Applied Linguistics*, 9, 198-217.
- Method, K., Flaherty, G., Hargrave, J., & Jones, H. (2002). *Stories to tell again (5)*. Tokyo: Macmillan Language House.

資料 1 : *The New Principal* のスクリプト

The new principal

Class 5A was the worst class in school. The students were very badly-behaved and took no interest in their lessons. When a new principal came to work at the school, he stood outside the classroom for a few moments, looking through the window. He was disgusted by what he saw. Some boys were fighting, and other students were throwing things at one another. No one was doing any work. The principal had experienced rowdy classes before and he knew what to do. He took a deep breath and opened the classroom door. The students paid no attention to him.

“Silence!” he shouted.

This time the students stopped what they were doing and looked at him. He quickly walked up to the oldest-looking boy in the room. He had also been the noisiest. The principal took hold of the boy by the ear and pulled him to the front of the class. “I am going to punish you as an example to the others,” he said. “Now go to my office and wait for me.”

Then he turned to the other students and lectured them about the proper way to behave in class. When he had finished, he said, “Does anyone have any questions?”

One of the students raised her hand. “Yes, sir. I do. When can we have our teacher back?”

The principal suddenly realized what he had done. “Are you telling me that the boy I just sent to my office is your teacher?” he asked the girl.

“Yes, sir,” she replied. “That’s Mr. Harris – our teacher!” (260 words)

badly-behaved: 行儀が悪い ⇔ well-behaved

principal: 校長 = headmaster [British]

be disgusted: むかつく、いやになる

rowdy: 乱暴で騒々しい

take hold of ~ by ...: ~の...をつかむ

lecture: 説教する

資料 2 : *The New Principal* の Comprehension Questions

A. Mark T for true or F for false. Correct the false statements.

1. When a new principal came to school, he immediately entered the classroom. (F)
2. The principal walked into the classroom to introduce himself. (F)
3. The students stopped what they were doing as soon as the principal came in. (F)
4. The principal sent the noisiest boy to his office to punish him. (T)
5. The principal talked to the students about the correct way to behave. (T)

B. Answer the following questions.

1. What did one of the students ask the principal?
2. What did the principal realize as soon as the student asked the question?

資料 3 : *The New Principal* の Retelling のための Key Words (3 の work、5 の Attention はそれぞれ no work、No attention を表す)

Key Words for Story Retelling

Let me tell you a funny story.

1. Class 5A
2. New principal → Through the window
3. Be disgusted (fighting, throwing, work)
4. Deep breath → Open the classroom door
5. Attention
6. Silence! → Stop
7. Oldest-looking boy, noisiest → Front of the class
8. Punish, example → His office
9. Lecture → Any questions?
10. Raise her hand and ask . . .
11. Realize (boy, teacher)

No wonder he was the oldest-looking!